

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 菅生 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、数学）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学）

教科に関する調査（国語、数学）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問調査

生徒質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学）の結果

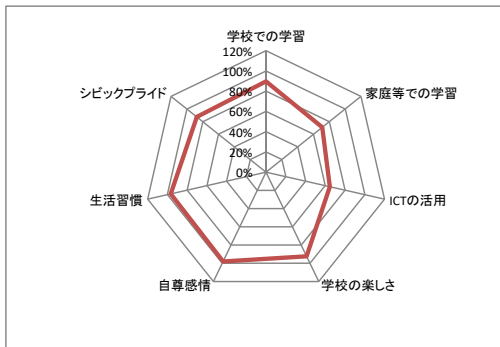
本年度の結果	国語		数学	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	57	7.8	49
全国	8.7	58	8.4	53

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「思考力・判断力・表現力」の「読むこと」に関する問題の平均正答率が、それ以外の領域の正答率に比べて高く授業で学習したことの定着が結果に現れている。一方「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、さらなる力が求められる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「文章を読む問題」では目的に応じて必要な情報に着目して要約することができた。	
	努力が必要な問題	短歌について表現の技法や描写から内容を把握する問題は努力が必要である。	

数学	全体的な傾向や特徴など	「数と式」の問題については、ほかの問題に比べて平均正答率が高くなっていたが、「関数や図形」に関する問題については正答率が低く、苦手意識をもっている生徒が多いことがうかがえる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	五つの箱ひげ図を比較する中でデータの分布の傾向を比較して読み取り、説明することができた。	
	努力が必要な問題	関数関係に着目し、グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈する問題では努力が必要である。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」 ・「毎日、同じくらいの時刻に起きている」の回答は全国平均を大きく上っており、基本的な生活習慣や学習の振り返りが定着している生徒が多いと考えられる。 ・ICTの活用は年々増えており今後も授業で使用していくことが大切である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 単元の最初に学習課題を設定し、自ら進んで解決に向かう姿勢を養う。
- ICT機器を活用して協同的に学ぶ場面を増やし自分の考えに加え他者から聞いて「分かったこと」などを整理する時間を設ける。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 家庭学習用のプリントやタブレットの学習ドリルを活用して評価・点検を行う。
- 定期テスト前の学習指導計画表を丁寧に作成するとともに見直しをもって学習ができるように指導する。